
うわ言ものがたり

ぬじゅわきし

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

うわ言ものがたり

【著者名】

N-1940-N

【作者名】

ぬじゅわきし

【あらすじ】

全てノリで書いてみた、一貫性のないただある夢のよつな物語。

その日、おじいさんはおばあさんがいた。おじいさんは山に草刈に行き、おばあさんが川に洗濯をした。ある日おばあさんが洗濯をしていると大きな桃がどんぶらこどんぶらう。

「これは大きな桃じゃ」

とおばあさんは桃を運んで、どんぶらこどんぶらう。やがておじいさんの家に着き、大きな桃を見せるとおじいさんが狂氣乱舞して、しばしの間海老おどりをした後、ナタを持って桃を割つた。

するとなかから赤ん坊がおんぎやあおんぎやあおんあぼぎやあ。

「これは大きな孫じや」

とおじいさんは子供を運んで、おんぎやあおんぎやあおんあぼぎやあ。

子供は桃太郎と名づけられ、やがて大きくなり、立派な青年になつた。おじいさんは七五調でリズムよく言つた。

「おおお これは 桃太郎。すっかり 立派に なつたのう。」

「何を言つたか おじいさん。まだまだほんの 若造です。」

「これこれ 謙虚はよさないか。すっかり お前は 色男。」

「ところで 聞くけど おじいさん。色男って なんですか。」

「それは 簡単 読んだまま。 カラーのある人 色男。」

「つまり 僕は フルカラー。 他の 人は モノクロね。」

「そう わしも 白黒じや。 きみだけ カラーで 写つてる。」

「あれ それじゃあ おじいさん。木の葉は 緑の色じやない?」

「そう、本当は色が無い。 すべてはモノクロ、君だけ特別。選ばれし者の宿命だ。よく聞きたまえ、桃太郎。君は ホントはいな

いのだ。なぜなら 異世界 の住人。桃を 伝つて 現れた。君はやがて 呼ばれるであろう。君の世界の奥底に。唯一信じた

友達も、道路の底に埋まつてぐ。それではみなさん歌いましょう、
ではじーんせいー苦ーもーあーりやー苦ーもあーるーそー

それから三年後のことである。桃太郎改め、太郎は、信介と町を歩
いていると、フンコロガシに似た小さな黒い虫が歩いているのを発
見した。

太郎は訊ねた。

「あれ、何？ フンコロガシにみえるナゾ。」

「ああ、あれはチキュウコロガシだよ。道路の上に歩いているよう
に見えるが、実は、僕達含めて地球が「こないだあいつに会わせて転
がつてるのぞ。」

しばらく歩くと、サッカーボールがひとりでに「ちかちかちか」と転
がるのが見えた。よく見るとやはりフンコロガシに似ている虫がい
る。

「あれは？」

「見ての通りボールコロガシ。」

しばらく歩いたとき太郎の足元にまたフンコロガシに似た虫がいる
事に気づいた。

「これは？」

その時信介は真っ青な顔になつて言った。

「ヒトコロガシだあ！」

「え？」

次の瞬間、太郎は「きああああああああああああああ」と叫びながら、そ
の虫にじごりじごり道路に転がされた。あまりにも速くて目が回る。い
つまで続くのだろう、と太郎は転がりながら思つが、なかなか止ま
ない。そのうち、坂道を登つて、断崖絶壁から転げ落ちた。

「ぎやあ！」

だが、太郎はそのまま落ちずに風に乗って飛んでいた。

「すごい、すごい、飛べるよ僕！」

下には大都会が広がっている。上には雲がある。ビルまでいくのだと云ひ、太郎はどんどん空を飛んだ。

やがて空と言つものが音を立てて消失した。見回すと何も無い。ただ、机があるだけだ。太郎は机に向かう。机の上には勉強道具が置かれていた。教科書の題名はこうであった。

「安住と希望の大地へ。明日の方向へ向かう青春の希望のために。」

そうなのだ。そして、毎日、太郎はつらい訓練を受けてきた。その結果とんでもない戦争に赴く事となつた。なぜこの戦争が始まつたのだろう。それは「 $1 + 1 = 2$ 」か「田んぼの田」かを論争して始まつた戦争である。意見が大きく分かれていがみ合いになつた。それで戦争になつたのだ。

歩兵である太郎はあまり頼りにならない銃を持つて戦地に赴く。そこは見たことの無い異国之地だ。太郎は「わあああ」と叫びながら突進した。

ふと、八頭身のウサギが視界を横切るのを感じた。なんだろうと思つた途端、空から飛行機が現れ、爆弾を落とし始めた。兵隊に爆弾が直撃すると、その兵隊は、突然死ぬまでコマネチをし始めた。太郎はイヤになつて叫んだ。

「ほんじついさん！」

それがきっかけで、エレベーターが発明された。エレベーターの發

明は人類にとってまことに偉大な一步で、今の繁栄を支え続けてい
るものなのである。ゆえに我々はこのことをしつかり覚え、決して
忘れてはならない。

終わり。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1940n/>

うわ言ものがたり

2010年10月16日11時28分発行